

2015年7月10日  
テオリア第34号

定価 350円

毎月10日発行

定期購読料 年間 4000円

半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

θεωρία  
**テオリア**

発行 研究所テオリア

東京都千代田区内神田1-17-12

勝文社第二ビル101

TEL & FAX 03-6273-7233

ホームページ

<http://theoria.info>

E-mail: email@theoria.info

# 戦争国家への転換にストップを！



6月14日＝国会前

## 立憲主義破壊する

### 安倍政権

安倍政権は戦後国家のあり方を根本的に転換する安保法制＝戦争法案を成立させるため、国会を9月まで3ヶ月以上大幅延長する。

この間の法案審議で明らかにしてきたことは、安倍政権による立憲主義の否定だ。

安倍政権の論理破綻が露わになったのは6月4日の衆院憲法審査会の参考人質疑だ。参考人として発言した憲法学者は3人全員が安保関連法案は憲法違反だと明言。「集団的自衛権の行使容認は憲法違反」と指摘した長谷部恭男（自民党推薦、早稲田大学教授）は一昨年の秘密保護法案の参考人質疑では自民党の意向に沿った賛成論を述べている。そ

のような立場の学者でも、立憲主義否定を容認することではできなかったのだ。だが、憲法違反の戦争法案成立をめざす安倍政権は居直り発言を連発している。

中谷防衛相は衆院平和安全法制特別委員会で「現在の憲法をいかに法案に適用

（2面へ続く）

## 国連・憲法問題研究会講演会

### 安倍政権の戦争法案

「平和」「安全」で戦争する国へ

永山茂樹（東海大学法科大学院教授・憲法学）

7月4日（土）午後6時半～9時

文京シビックセンター地下1階学習室

（後楽園駅・春日駅）

## 紙面紹介

集急進展する軍学共同にどう対抗するか……………2面

座談会 時代の転換と若い世代の政治参加の可能性

今橋大輝・菅谷圭祐・重松朋宏……………3～5面

戦後日本の左翼 反省と再生 敗戦70年をふりかえる②

（その2）白川真澄……………6～7面

吉川勇一さんと共にたたかった日々 白川真澄……………8面

## 夏期カンパをお願いします

皆さん、夏期カンパをお願いします。

平和主義を否定するものが「平和」を謳い、立憲主義を否定するものが「法の支配」を語り、「平和」「安全」の名で「戦争する国」作りが進められています。同時に生涯ハケンなど雇用破壊、「侵略・植民地支配」を削除する「安倍談話」、監視国家化、格差・貧困拡大の動きが続いています。

対抗する思想、理論、社会運動をひとつのり上げていくのか。

ともに考え、行動しましょう。

2015年6月

研究所テオリア運営委員会

## ◆カンパ送り先

郵便振替 00180-5-567296 研究所テオリア

城南信用金庫神田支店 普通口座 口座番号2080573 口座名 研究所テオ

リア（信金への振込の場合はFAX、メールなどで振込内容をご連絡ください）



（1面から続く）  
（6月5日）。安倍は「従来の見解に固執するのは政治家の責任放棄だ」（6月18日）と発言した。

解釈改憲を進めた歴代自民党政権も、集団的自衛権は違憲だと明言してきた。安倍は4月米議会演説で日米の共通の価値として「法の支配」を挙げたが、違憲立法の法制化は「法の支配」の否定だ。これが通るのなら、野党が指摘している通り、憲法解釈変更で徴兵制も合憲とされるだろう。

現実乖離の想定  
狙い

安倍政権は日本の集団的自衛権行使は「武力行使と一体化しない後方支援」を行うものだ、と、集団的自衛権行使を正当化しようとしている。

だが、「後方支援」＝兵站であり、兵站なくして現代戦を遂行することはできない。実際の戦闘で相手は兵站を攻撃してくる。「武力行使と一体化しない後方支援」などという屁理屈が通用する余地はない。

安倍は「武力行使はホルムズ海峡での地雷除去しか今は念頭にない」と、集団的自衛権行使の唯一の具体例として「ホルムズ海峡機雷掃海」を挙げている。

安倍は「日本の石油の8割はホルムズ海峡を通る」。高村は「ホルムズ海峡封鎖で凍死者が出る」と危機を

煽り、戦争法案を正当化しようとしている。

だが、現代の国際社会において、資源確保のための軍事力行使は正当化されない。何より、この想定で仮想敵にされるイランは石油輸出の全てをホルムズ海峡に依存しており、海峡封鎖で困るのはイラン。逆にイランと対立するサウジアラビアとアラブ首長国連邦はパイプラインを建設し、ホルムズ海峡を通らない紅海やオマーン湾からの石油輸出を増やしている。

さらに日本産業のエネルギー多角化は進み、73年度国内エネルギーの75%だった石油の比率は現在40%台前半まで低下。石油・天然ガスの供給元としての湾岸諸国の比率も低下している。その上、日本の石油備蓄は半年分ある。

仮にホルムズ海峡封鎖がされたとして一部の産業に影響は出るだろうが、凍死者が出るような事態は起こりえない。安倍、高村が言っていることは石油ショックの記憶を持つ世代をだますための完全なデタラメだ。

三上智恵さん（映画監督）は安倍政権のホルムズ海峡強調を「カムフラージュだと思ふ」「米国は中国海軍の動きを封じ込めるため、沖縄の自衛隊の活用を考えています。万一、米中の軍事衝突があった場合には、日本が集団的自衛権を行使すれば共同対処できるという思惑がある。つまり米中間の戦争に日本が参加するこ

とになり、最前線の沖縄がその舞台にされてしまう。」

「安倍首相は『石油がなくなりたら大変』というわかりやすい例を繰り返すことで、沖縄で起きている事態から目をそらさせようとしている」（毎日新聞、6月5日夕刊）と批判している。

安倍に  
開戦の白紙委任

03年、米国は存在しない「フセイン政権の大量破壊兵器」を口実としイラク戦争を起こし、10万人以上のイラク民衆を殺した。嘘で始められたイラク戦争は、「イスラム国家（IS）」を生み出す結果となった。イラク戦争の失敗は、戦争を主導した米国内でも否定できなくなっている。

安倍は、5月14日法案閣議決定後の記者会見で「米国の戦争に巻き込まれる、絶対ありえない」「自衛隊がかつての湾岸戦争やイラク戦争の戦闘に参加するようなことは決してない」と強調した。

だが、英国などイラク戦争参戦国の多くは「大量破壊兵器」という嘘で行われた戦争を検証している。一方、自衛隊派兵でイラク戦争に参戦した日本政府はイラク戦争の検証を行っていない。これによって、「米国の戦争に巻き込まれることはない」などといえるのか。

安倍は党首討論（6月17日）で岡田（民主党代表）の質問に対して「あらかじめ言えない」「政策的な中身をさらす海外のリーダーはいない」と存立危機事態に関する説明を拒否した。法案が成立すれば、戦争発動は首相に白紙委任されると宣言したことになる。

悪などが上程されている。安保法制は、周辺事態法を重要影響事態法とするなど15年ガイドラインを法制化

する内容。マイナンバー法案が成立すれば、戦争発動は首相に白紙委任されると宣言したことになる。

戦争法案のPKO法改悪は治安維持活動・駆けつけ警護」を認め、「任務遂行型の武器使用」を認める。

自衛隊法改悪では、自衛官が上官命令に従わなかった場合、7年以下の懲役・禁固という処罰規定が国外でも適用となる。明らかに海外派兵拡大を念頭に置いたものだ。自衛隊が海外で「殺し殺される」危険性が増大する。

問われる反戦運動

戦争法案制定のための国会大幅延長は、99年「145国会」を想起させる。この年、小渕政権によって現在の自公体制に連なる自公体制が成立。145国会では、97年ガイドライン（日米防衛協力指針）を法制化するための周辺事態法、盗聴法、国旗国歌法、住基ネットを法制化する改悪住民基本台帳法、国会法改悪（憲法調査会設置）などが成立。自公体制の下での自衛隊のインド洋・イラク派兵、監視国家化へとつながっていった。

今国会には派遣法改悪などと共に安保法制、マイナンバー法改悪案、刑訴法改

悪などが上程されている。安保法制は、周辺事態法を重要影響事態法とするなど15年ガイドラインを法制化

する内容。マイナンバー法案が成立すれば、戦争発動は首相に白紙委任されると宣言したことになる。

戦争法案のPKO法改悪は治安維持活動・駆けつけ警護」を認め、「任務遂行型の武器使用」を認める。

自衛隊法改悪では、自衛官が上官命令に従わなかった場合、7年以下の懲役・禁固という処罰規定が国外でも適用となる。明らかに海外派兵拡大を念頭に置いたものだ。自衛隊が海外で「殺し殺される」危険性が増大する。

問われる反戦運動

戦争法案制定のための国会大幅延長は、99年「145国会」を想起させる。この年、小渕政権によって現在の自公体制に連なる自公体制が成立。145国会では、97年ガイドライン（日米防衛協力指針）を法制化するための周辺事態法、盗聴法、国旗国歌法、住基ネットを法制化する改悪住民基本台帳法、国会法改悪（憲法調査会設置）などが成立。自公体制の下での自衛隊のインド洋・イラク派兵、監視国家化へとつながっていった。

今国会には派遣法改悪などと共に安保法制、マイナンバー法改悪案、刑訴法改

急進展する軍学共同に  
どう対抗するか

や司法取引などを拡大する。内容。さらに法制化ではないが、国立大学への「日の丸掲揚君が代斉唱」の「要請」が行われている。90年代にしかれた戦争国家への道がさらに進む。

安倍は5月14日、「戦争に巻き込まれる、という批判がまったく的外れであったことは歴史が証明してき

た」と強弁した。

同研究」との記事をきっかけに、これではいけないとネット署名を始めた。研究費の現状は惨憺たるもの。先生が軍関係のテーマを持つてくると、知らないうちに学生がそのテーマをやらざるを得なくなる」と危機感を表明した。

続いて、アピール署名の会の代表でもある池内了さん（名古屋大学名誉教授）が「最近の軍学共同の進展状況について」と題して基調報告した。「今、歯止めを

つけておかないと、軍学共同は急速に広がる恐れがある。このままいけばあと10年で大学がいかに変質させられるかは明白だ。アンケートで「太平洋戦争中が最も自由に学問できた」との回答があるが、科学者を飢えた状態にして軍事研究に誘引する大きな動きが進んでいる。13年から、大学と防衛省技術研究本部との「技術交流」が増加している。そして、特定秘密保護法がその背後に控えている。また新ガイドラインには「安全保障及び防衛に関

歴史が証明したことは、ベトナム戦争、イラク戦争など日本政府が支持したアメリカの戦争が間違った戦争であったこと。日本民衆の反戦の声が強かったから、自衛隊が前線での戦闘参加をすることができなかったという事実だ。

事態は、統一地方選挙での自民党勝利と4月訪米をテコに、戦争法案の早期成

する知的協力の重要性を認識し、各々の研究・教育機関の意思疎通を強化する」と書かれている。こうした動きにしっかりと対抗していく必要がある。

藤岡惇さん（立命館大学教授）が「経済競争力の劣化が宇宙／核戦争を招く」米国の「軍学共同」が示した」と題して基調講演。 「安倍政権による「第3次宇宙基本計画」は「宇宙でも戦争する国」を志向するものだ。軍学共同の動きはやりすぎたら嵐がおさまる程度のもではない。カ

ジノや兵器は「無駄財」そのものだが、兵器財はハイテクの塊であり、研究開発集約型になっている。今や軍事調達4割が研究開発分野に投じられている。軍事・兵器は産業政策のツールとなり、米国のDARPA（国防高等研究開発局）は米国最大のベンチャー資本となっている。そして、「軍・産・学・地域」複合体が恐怖心をエネルギーにしてパワーを発揮し、軍需依存症＝軍中毒をもたら

る。そして、特定秘密保護法がその背後に控えている。また新ガイドラインには「安全保障及び防衛に関

立を狙った安倍政権の目論見通りには進んでいない。

報道各社の世論調査では安保関連法案の今国会成立反対が賛成を大きく上回っている。

安倍政権は戦後最長の会期延長を行い、維新との修正協議を進めることによって、戦争法案強行のイメー

ジを薄めることに腐心。戦争法案を今国会で何として

している。集団的自衛権を言い出した背景に、地球規模ではなく宇宙規模の新型宇宙戦争システムを共同で防衛し、共同作戦を行おうとする意思が存在する。こうした動きに対して、「オー

ル沖縄」の挑戦には大きな意義がある。本当の平和と繁栄に向けた代案を考えていこう。藤岡さんからは7月末に京都で開催される宇宙と平和・国際セミナー（<http://space-peace-kvoto.blogspot.jp/>）への参加も呼びかけられた。ミサイル防衛や宇宙軍

も成立させようとしている。

安倍政権に対し、6月14日の国会包囲行動に2万5千人（主催者発表）が集まるなど、全国で戦争法案反対の声が上がっている。

戦争への道をとめられるのか。日本の反戦平和運動、市民が問われる「熱い夏」となる。（6月21日）

河村遼

インフォメーション

戦争法案反対国会前集会

7月9日(木)、16日(木)、23日(木)、30日(木)午後6時半／衆議院第二議員会館前

戦争法案反対ー日比谷集会

7月14日(火)、7月28日(火)午後6時半／日比谷野外音楽堂  
とめようー戦争法案集まろうー国会へ7・26国会包囲行動

7月26日(日)午後2時／国会周辺

いずれも、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

7・19三里塚・東峰現地行動

7月19日(日)午後1時結集／旧東峰共同出荷場跡／三里塚空港に反対する連絡会

「戦後レジーム」の70年を問う7・8月行動

7月26日(日)午後1時半／全水道会館／実行委員会



座談会

# 時代の転換と 若い世代の政治参加の可能性

## 統一地方選挙と政治参加

### 地方選挙への挑戦

司会 「日本を取り戻す」と  
叫ぶ安倍政権は、安保法制  
Ⅱ戦争法案制定によって戦  
後の平和主義、立憲主義、  
民主主義を根底からひく  
り返そうとしています。4  
月に統一地方選に挑戦した  
皆さんが集まっていただ  
き、歴史的転換の中で今後  
をどのように展望するの  
か。その中で若者の政治  
参加について話し合ってい  
きたいと思います。

菅谷 4月統一地方選挙で  
川崎市議選に立候補落  
選。運動の延長で選挙に出  
て、残念ながら及びません  
でしたが、4年後も考えて  
います。

#### 出席者

今橋 大輝 (川崎市議選に挑戦。大学院生、25歳)

菅谷 圭祐 (豊島区議選に挑戦。障がい者介助、27歳)

重松 朋宏 (国立市議会議員、43歳)

司会 繁山達郎



いまはし だいき

菅谷 学生運  
動をやっていたが、今は就  
活で何十社も  
受けないとい  
けないとか、  
私大文系で学  
費が百万円超  
えていると  
か、自治する

菅谷 立候補の一番の理由  
は、自分たちが住んでいる  
街から議会に人を出そうと  
思ったから。  
法政大の学生だった頃から  
東池袋でシェアハウスを  
始めた。町内会・青年会に  
参加するなど、地域とのつ  
ながりは多少ある。  
今橋 同じ大学ですが、活  
動よりも本を読み込んで勉  
強をするタイプ。哲学を勉  
強していたが、物足りない  
というか、論文を書いて発  
表してもなかなか力になら  
ない行き詰まりを感じ、選  
挙に出ることになった。  
高津区から24年間議員を  
やっていた猪股美恵・川崎  
市議(当時)と出会ったの  
がきっかけ。世代交代が課  
題だった猪股さんに出馬を  
勧められ、熟慮の末、出る  
ことにした。

菅谷 選挙に出るとき同世  
代の反応はどうでしたか。  
今橋 反応は分かれました。  
た。親しい人でも好意的な  
人と連絡すらしてこなくな  
る人がいた。  
選挙について若い人が考  
えているイメージは実態と  
かけ離れている。そのせい  
で、考えている人は関わり  
たくないのかなど。政治が  
おかしいとぼんやり思っ  
ている人が、逆にすごく手  
伝ってくれた。考える前  
に街に出て動くほうが大事  
だ。  
菅谷 周りの反応は予想通  
り。むしろデモとか集会を

空間がないとか。これらは  
大きな政治に結びつく問  
題。  
なぜ豊島区議選か。今  
は学生ではなく、自分の生  
きている場所で活動するこ  
とが大事だと思うから。  
重松 東池袋という地域性  
は、おもしろそうですが。  
菅谷 ある人に聞いたとこ  
ろ、東池袋の僕が住んでい  
るあたりは日本で一番きれ  
いなスラム街と呼ばれる雑  
居しているところの方が反  
応は良かったですね。  
司会 有権者の反応は？  
菅谷 若いということで好  
意的な人が多かった。ただ、  
全体としては浮動票のほう  
が多かったと思う。だから、  
地域に根付いてもっと多く  
の人に顔を覚えてもらうと  
いうのをやっていかないと  
きつい。そうでないと当選  
できていい仕事はできな  
い。  
今橋 特に同世代やその下  
の世代は好意的だった。猪  
股さんたちからすると、驚  
くくらいの反応だった。猪  
股さんが街頭演説しても、

多な場所。しかし、区役所  
新庁舎が歩いて10分の場所  
に移転。再開発が活発化し、  
昔からの商店街がなくな  
る。  
マンションに一人で住ん  
でいたら、ご近所との関係  
性はあまり生まれません。  
僕らのシェアハウスは戸建  
に数人で生活をしている。  
空き店舗を安く貸してもら  
えるという話もある。根付  
いてやっていきたい。

### 同世代の反応は



しげまつ ともひろ

若い人はチャ  
シを受け取っ  
てくれない。  
僕が話をして  
いると、高校  
生がチャシを  
とってくれた  
り、同世代の  
人が声をかけ  
てくれたりす  
ることがよくあった。出  
会えた範囲では、若い人と  
交流できたし、そういう人  
の期待をもらえたと思っ  
た。時々はやし立ててくる  
のがいたが。  
可能性を感じたが僕が活  
動したのとは半年なので、時  
間不足だった。  
菅谷 自民党はすごい。豊  
島区議選では36人中11人で  
全員当選。  
シェアハウスをやっている  
ので中卒、高卒、フリー  
ター、ニートみたいな人が  
くる。政治意識が高い人も  
いるが、デモに連れて行く  
と何を言っているのか分  
らないと言われる。左派層  
がヤンキーみたいな人との  
関係性を構築してこれてい  
ない。  
左翼は自分は正しい信念  
でというのがあがる、例え  
ば霞が関・国会前にはいっ  
ぱい知り合いがいるけれ  
ど、地域のことは知らない  
という人が多い。大衆のこ  
とを自民党の方が知ってい  
るのかもしれない。

## 地域から変えられるのか

### シェアハウスという実践

今橋 菅谷さんのシェアハ  
ウスに行きました。汚かっ  
たが、活気がある。たくさ  
んの人が来て汚いというの  
は、たくさん関係性の中  
で生きているということだ  
はないか。  
菅谷 今回の選挙は住宅問  
題を強く訴えた。シェアハ  
ウスというのは若い人が主  
体の新しい文化。  
シェアハウスをやってい  
て、将来は30代、40代にな  
っていく。どのように地域で  
根付いてやっていくのか  
が大きな問題になってい  
る。結婚・子育てできるの  
か、子どもの教育どうする  
のか、というのが現実問題と  
して生じてくる。

菅谷 住人の  
数は？  
菅谷 住人は  
4〜5人。い  
まは全員20  
代。これまで  
に離婚した40  
代の女性、家  
出同然で来た  
人、韓国人留  
学生、荒くれ者もいた。1  
階は誰が来てもいい共有空  
間。2階が寝室。僕らは個  
室がなくドミトリ。誰  
でも住めるように家賃は月  
2万円。  
菅谷 採算は取れるのです  
か。  
菅谷 収益は全くない。経  
営ではなく運営という言い  
方になっている。  
住んでなくても場所に意  
義を感じている人など運営  
に携わっているのが25〜6  
人。



すがや けいすけ

菅谷 シェアハウスは企業  
がやっている経営系と運営  
系に分かれる。経営系が多  
いが、運営系も一定ある。  
(4面へ続く)



(3面から続く)  
運営系でも3つの傾向がある。私たちは地域に根付いて、その地域で生きていく土壌を作っていくという方針がある。

2つ目は場所を増やすのではなく、自分たちの住む家を大きくしていく志向が強いケース。3つ目は全国に展開していくケース。これは、それぞれ渋家(しぶはうす)や、リバ邸があてはまるのではないかと思う。

今橋 違いは中心の人の志向から？

菅谷 そうです。

今橋 そうなると、地域に関わっていくというものはシェアハウスだからではなく、運営者の志向からということになる。

菅谷 選挙が全てだとか、ゴールだとも思っていない。それは政治や生活全体の一部ではない。それに僕一人で大きなことができるとは思っていない。今後豊島区で生きて、いろんな人と活動していく。例えば介助の仕事のほかにシェアハウス昇降で弁当屋の手伝いをしている。食を作ると必ず余剰ができる。昔は野宿者に分配していたらしい。地域の中こういった活動に参画していきたい。

今橋 川崎市を見ると、マンションがたくさん作られていて、住居環境が大変になっている。迷路みたいになって救急車両が入れないのを見ると、政治はやっぱり関わっていると思う。

菅谷 個人的には高層マンション否定派。シェアハウスはなぜ戸建てでやるか。ドア・ツー・ドアの関係になる。窓を開けるとすぐに話せる。マンションだとそういう関係はつくりにくい。そういうのがあって、

### 場と政治性

今橋 政治性の一致だけで集まるというのはよくない。なにもないところで集まることはできないので。

菅谷 今橋君の言うことはその通りだと思う。

特定の問題について構成するのはなく、まずはつくって行動していくのが大事。それは自然環境のことでも、読書やサブカルでもいい。政治性以外の場所をつくる。そこから、政治の議論を始める。そこから運動を作っていくのが大事。

政治性で集まった場合、議論のしようがない。反原発と決まっていたら、違和感を持っていても言うことができない。そういうところで乖離していく。政治性と別なところで場を作って、議論したり運動を作っていくのが大事。

重松 空間的な拠点をつくるとうとうのと、テーマ的なコミュニケーションを作ろうというのの違いがある。両方が網の目のようにないと政治的な運動もない。周りには趣味的なサークルや夜遅くまで学生がたむろしている空間になってしまっていて、生産的に外へ働きかけていく力にはならない。

重松 防火機能からすると、大きなまっすぐの道路をとる。木造密集住宅はマンションにして。いまだにそれ以外考えない。

菅谷 今橋君の言うことはその通りだと思う。

菅谷 昔の活動家と話をするとき、君たちは何主義だ。何の本で思想統一しているんだと聞かれる。思想統一とかしてませんという。どうやって、運動を作るんだと驚かれた。

今橋 政治性とかを自分たちの内輪のだけで保っている、あまり意味がない。縮小していくし、時々内輪で集まって愚痴を言うだけ

### 「地方創生」をどう批判するか

重松 今回の統一地方選挙の焦点は地方創生問題と人口減少問題。増田レポートを受けて、地方版アベノミクスー地方再編に本格的に乗り出した。

今橋 僕が訴えたのは「働き方を変えよう」。政治の中で新しい働き方の試みができる、働く人にとってもいい働き方の形ができるのではないか。そのために地域と都会をもっとつなげて

菅谷 参加している地域活動のおじさんと話をして、哲学科ですという。今は厳しいよなど、反知性主義批判をしている。自然環境保全という目的で集まって、そういう話をしたことはなかったが、批判的な政治意識を持っている。これを効果的な動きにしていけるのが大事。

菅谷 国政レベルにアクションしていくのは難しいけど、地域でそういう人たちのつながりながらやっていくことは難しい。時間はかかるかもしれないが、持続することによって作っていく。それは国政に出て行くということよりは現実的。もちろん、志ある人が国政で出るといふのなら、今回の経験を生かして手伝いたい。

重松 小泉政権から「選択と集中」「コンパクト・シティ」と言っている。市町村合併と財政的な地方切捨てのレベルだった。今回軸足をはっきりさせて地方の中枢拠点都市に集中させる。そこをダムにして東京一極集中からIターン・Uターンの流れを作っていくと。

菅谷 僕が高知で地方出身だが、地方か都会という二者択一は難しく、どちらも一長一短ある。

ただ選挙を終えてみると、行政でどこまでできるのかという疑問も持っている。できることとすれば、

今橋 増田レポートは地方の中枢都市に集中させるといっている。高知市なので、辺鄙なところに比べると人が集中させられる場所。人がいなくなる場所には逆に魅力を感じる。コンパクト・シティとかでまとめられていくことには抵抗したい思いがある。高知県の東端の室戸岬に行ったら、ジオパーク・海洋深層水など資源を有効活用することで、価値を高める努力を感じた。そういう魅力を発信していくことではないか。

菅谷 僕は青森の消滅しそうな自治体の出身。北東北に戻って、今と同じことができるかと言ったら、閉鎖的な土地でできないというかやりたくない。

地方の過疎が著しいような地域では、今までと同じようなイメージで経済とか作っていくのは難しいのではないか。

菅谷 例えば空き家問題が大きく扱われているが、ドイツとかでは建物を占拠して住めば居住権が認められる。日本の場合には権利が生じるまでが長い。あるいは、こういう点でのダイナミックな転換が必要かもしれない。

今橋 新しいことを生んでいくと云ったら、それくらい勢いでないと。日本でも権利が生じるまで住むというのがないといけないのかも。

耕作放棄地問題も里山を守る会に貸し出すとか。それをつまづかないでいく仕

事が大事。  
菅谷 弁当屋を手伝って、僕らのシェアハウスに余っ

たものを持って返ったり、フードバンクのことを考えている。空き店舗を借り

るのも、お金儲けより商店街と一緒にやれるという思

## 若者の保守化と政治参加

### 若者の保守化

司会 若い世代が保守化しているといわれるが、どう思いますか。

今橋 自分も昔の人と比べると、保守化していると言われると思う。仮に戦争反対でがんがん言われるとどうなのかと思ってしまう自分がいる。保守系に流れないのは哲学をやっていたから。哲学は言説では極端な方向へ行くので。

菅谷 他の方は政治がどういことかわからないところで議論されてしまうと、今の自民党に流れてしまう。安保法制でも、では中国に対してどうするのと言われると、そういう安保法制が必要なのかと考えてしまう。

内面から考えると、若い人ははじめの人が多い。学校でまじめであるというのは、学校の中のルールとか、テストの点は高いほうがいいという規範に従ってしまうこと。

学校で教えられることは数学や国語ではなく、問題を出す人が正しくて、自分はそのと同じことを教えるか間違っているかを教えられる。学校で正たら先生と生徒で先生が正

しい。企業だったら経営者と労働者で経営者が正しいという構造的なものを教えられる。受験も大きく関係している。そういうところが保守のベースとなっていくと思う。

菅谷 中高年が10、20代より政治意識が高いかという。そうは思わない。投票してくれた近所の人は普段は付き合いで公明党に投票していた。政策を知らないで入れている中高年も多い。知り合いを作るのは重要だが、公明党的なものや、

今橋 1月に成人式に行っていることが2つあった。選挙の年の成人式はいろんな陣営が来てチラシを配る。その時は僕らだけ政治活動が収縮しているのを感じた。

新成人もこれから成人として政治に責任を持つていくという意識があまりない。

重松 それは昔も今も変わらない。

### 公共的空間の縮小

菅谷 人々が政治を意識するのは、子育てもそうだが、自治的なものが動機になることが多い。昔だったら下のジャズ喫茶とか。大学も自由な自治空間があった。公共な議論をする空間が少なすぎる。自分たちの町でこういうことがあって、どういことをしていくべきなのか。大学・職場

町内会はその候補だから投票しているとか、という投票は必ずしも政治意識が高いわけではないと思う。

今橋 僕も高校生のとき、社会のことに関心を持っていたわけではない。大学哲学科で4年経って就職活動始めてみたら、浦島太郎みたいだと感じた。哲学科だったので多少の広場はある。政治のことは普通に話をしていたし、話ができる仲間もいる。

大学も、今はひとつの就職予備校。考えることができる場が少なくなっている。よほどリベラルな先生がいるとか、自由な考え方が許されるような空間がないと難しいかもしれない。



でもそういうだが、そういう議論をする場がすくない。それが多くの問題の根底にある。僕も大学に入学した時は、政治に興味があった、環境による。

今橋 どれだけ議論しても変えることにつながっていないというのがある。

菅谷 いや、議論の機会自体が少ない。

重松 基盤があれば、普段はガード下で飲んだくれて愚痴をこぼしているだけに见えても、うねりや動きが起きている。愚痴っていただけの親父が目覚め

起業と安保法制

菅谷 起業がはやってるが。起業系の若者は昔だったら火炎瓶投げていたと思う。今は個人の収入や幸せのみに帰結している状況だ。

今橋 社会的企業やNPOを作ることが政治家になることよりも社会を変えることにつながる実行力を持っているか。そうだったときに選挙よりも社会的企業・NPOで働くというほうがよほど楽しいと感じる。

アートセラピーをやっているNPOで少し働いていたが、まだ収入につながらない。認知症対策とかストレスケアとかにアートを使っていくNPO。実際にアートセラピーで食べている人は少なかった。これからだと思う。

しかし夢があると言うか、目的意識をもつことはできる。政治・社会を変え

るものもあるかもしれない。菅谷 大学OBは学生が批判的な精神を持つことは空気のようになり前のことだったと言っていた。昔学生運動をやっていた人は大学は広場だったのに、今は通路のようだと。これは大学だけではなく、社会全体に当てはまる。

今橋 『希望格差社会』を読むと、本当にその通りで驚く。若者に欠けているとしたら、自分の置かれている状況が個人の問題ではなく、社会の問題だと考えること。

その状況で安倍政治をどのように批判していくかはすごく難しい。安保法制に關しても集団的自衛権は許されない政治学的に言うことはできる。そんなに悪い風にはならないだろうと、安保法制が現実的なように受け取られる。

重松 運動だけでなく、99年の周辺事態法・盗聴法制定の時のほうがうねりがあった。

安保法制の話が自分たちと遊離しているからなのか。だから、世論調査をやると反対のほうが多いし、今国会で成立なんてほとんどの方がびんと来ない。だからこそ、あえて反対も言わないし、そのまま通してしまっている部分が多い。それをどう突き崩していくか。

今橋 自民党政権も集団的自衛権を認めてこなかったのは国会が取り囲まれてしまったので恐怖感があったと思う。集団的自衛権を許してこなかった人々が政権の脅威にならなくなったことが事態を進めている。

重松 自衛隊は海外に出て行く必要性はなかったし、アメリカも要請していなかった。地方では自衛隊は有力な雇用先。自衛官が死ぬような状況は社会全体として作りたくない、保守層がむしろ思っていた。

菅谷 国政レベルの現状は芳しくない。可能性があるとしたら、学生・若者。12年には再稼働反対で10万人集まったが、8時に

なったら解散だった。警察と仲良く調整してやってみたい。そういう運動が受けるんだと思った。よくシェアハウスに遊びにくる不良上りのような

若い世代と直接行動

司会 去年12月の秘密保護法反対学生デモにSASP L(サスブル)特定秘密保護法に反対する学生有志の会が2千人を集めて、現在SEALEDs(シールズ)自由と民主主義のための学生緊急行動)として活動しています。どう評価しますか。

菅谷 左派ではサスブル・シールズに対しては批判的な人もいると思うが、立派だと思う。大変なのは継続すること。社会からは冷たい目で見られるし、財源の問題もある。サスブルの運営については詳しくないが、継続力はすごい。経験則からだが、学生組織を継続するのは容易なことではない。

今橋 僕も基本的に支持している。若い人が参加し、自分で作っていくのが大事だと思う。

菅谷 サスブル的なものでよくないのは、デモでもおしゃれな格好をしていないとだめだ、ヘルメットをかぶっていたらいけないとか、党派に属していたらダメだとか。これでは昔の党派のやり方と根底では大して変わらない。いろんな表

人がいるが、君らの学生運動なんかまともにしか見えない。百人逮捕覚悟で座り込みしたら、大きな社会問題になるんだから、それくらいやれよと言われる。

今の社会運動の楽しく、安全安心、危険な人はいませんと風潮に批判的ではある。

司会 直接行動的なところが一歩やりにくく見えにくい。

菅谷 それでも3・11の後、社会の見る目も若干変わってきているかな。先日、後輩の学生たちがブラック化反対のデモに参加した。学生がデモをやるのがそんなにおかしいことではなくなってきたと感じた。

90年代くらいから、怖くないというか、面白おかしくやっていますみたいな感じが

18歳選挙権で変わるか

司会 来年から18歳選挙権。自民党は世代別政党得票率で支持が60代について高いのが20代なので、選挙で不利になることはないと言っている。18歳選挙権で変わると思いますが。

菅谷 人々の反応で言うところ、デモや集会をやるより、選挙のほうが圧倒的にいい。ただ、10代・20代では好意的な反応は少ない。政治が必要ない、意識する人

が多く、10、20代では少ない。記念的に1回投票しても、

の「ゆるふわ」系デモがよいとされた。その中でデモのシユプレヒコールで、「ゆるふわ」系のシユプレヒコールよりも、ゴリッとしたものの方が反応が良いように感じた。「残業しない家で帰ってタラタラさせる」のようなものより、「ブラック企業絶対反対!」のようなものの方が受けがいい。

いまは都心においては「ゆるふわ」でなくともいい、もっとまじめにやるべきだという雰囲気が強くなっている。応援する声が増えている。直接行動的な学生・若者への理解は昔よりは開けていると思う。

今橋 楽しくいうだけではなく、自分たちの運動を効果的にするのが大事。政治活動をやっていく上でも、政治性以外で集まる場所が必要。

後は棄権となるのでは。継続的に政党・政治家を応援する人はあまりいない。

今橋 絶対数としては少ないと思うが。自分たちの意思を政治や社会に反映させないといけないと思っている人たちはそれなりにいる。

選挙前、市政アンケートを集めて回っていたが、ある家を訪問して名乗ったら、女子高校生の娘がチラシをもらってきていて知っています。この人の言っていることがすごくいいから応援しようと言っていた。

絶対数が少なくても、選挙権がなくても自分がおかれている社会に疑問を持っている人は親の投票権とかを使って意思表示をしようとすると感じた。

街頭で若い女性が一番厳しい働き方をさせられる、川崎でも女性の半分は非正規雇用という話をすると振り返って、チラシを取りにくる人がいる。だから、選挙になると、そういう状況を変えたい若者にとってひとつのチャンスになる。

司会 今度どのようにやっていきたいと考えていますか。

今橋 僕が次の選挙をやるとしたら、若い人が楽しいと思えるような選挙をやっていくことが大事だと思う。18歳から投票できると制度が変わったとしても、選挙のあり方自体を若者自身が変えていかないとダメだと思う。

菅谷 中期的な視点で見た場合、当選するには、浮動票だけでなく、基礎票、自分たちのコミュニティなどの組織票の積み上げをめざさない。既存のところで社会的信用・人格的信頼を勝ち取れないとやれないが。それだけではなく、自分たちで新しいものをつくっていく。いまやっている弁当屋の余剰を分配したりとか、シェアハウスで安く住むとか、商店街の空き店舗の活用などの延長線上での新たなコミュニティの創設が焦点になる。

それを話していくと、普段政治的な話をずっというのではないが、社会に批判的な方向性になっていくことが多い。「なぜ飲食店の余剰が街にあふれているのか」「なぜ商店街の空き店

舗が増えているのか」「なぜシェアハウスやコミュニティ作りが必要なのか」など、これらについて考えて議論すると、大体政治に結びつく。

今橋 里山を守る会の活動で公園を掃除したり、樹を剪定したり、見学を計画したりしている。政治性とは関係ないように見えるが、そこに集まっている人たちは選挙の時応援してくれたい。生物多様性・自然環境を重視している人たちは、いろんな考えの人がいるが、自然環境を重視する場所がベースになっている。政治的な議論を初めてできるようにする。

これからは地域で動いて、その中から安倍政権がどうかという議論をつくっていく。

テオリア論集3

徹底検証 安倍「成長戦略」

安倍政権の「女性活用戦略」

——仕事も生殖も介護も……って本気ですか？

水島 希

アベノミクス

——誰のための「成長」か？

宮崎 礼二

東日本震災とショック・ドクトリン

——「復興」便乗で再び収奪される東北

金野 正晴

TPPと日米のアジア太平洋戦略

金子 文夫

定価 1000円 7月発行予定

発行 研究所テオリア



座標塾第11期第2回

# 戦後日本の左翼 反省と再生

## 敗戦70年をふりかえる②

その2

白川 真澄

### 脱成長を豊かに生きる

ポスト3・11の社会運動

白川 真澄 著

世界的なシステムの歴史的な危機のなかで、成長神話に挑み脱成長の社会像を探り、国境を越える民衆運動の同時代的課題を問う社会変革へのアクチュアルな提言

### 新左翼運動の

### 歴史的意義と限界

68年～69年の

反乱

新左翼運動（党派と無党派）は、60年代後半のベトナム反戦闘争や全共闘運動の中から、「革新勢力」とははっきり区別される独自の社会的勢力として出現します。それは、共産党や社会党の一国平和主義や議会上の路線を批判し、第三世

#### 目次

はじめに

「55年体制」の成立と高度経済成長の政治

——「革新勢力」の興隆と新左翼の登場

「戦後革新勢力」の成功と弱点

新左翼運動の歴史的意義と限界

経済大国化と新自由主義の政治の始まり

——社会運動の転換

ポスト冷戦の時代

——連立政権から右翼主導の保守政治へ

民主党政権の誕生から安倍政権の復活へ

3・11と社会運動の新しい波

左翼は再生できるか

（以上次号以降）

新左翼は、佐藤首相ベトナム訪問反対の羽田闘争（67年）を引き金にして佐世保エンタープライズ入港（68年）、王子野戦病院、新宿の米軍タンク車輸送に反対する行動、そして佐藤訪米阻止の闘争（69年）において反戦・反安保闘争の先頭に立った。また、68年に日大と東大に始まった全共闘運動は、全国110の大学へと瞬く間に燃え広がった。

新左翼が主導したベトナム反戦・反安保闘争と全共闘運動は、性格を異にしたが、この2つの運動は相互に重なりあって発展しました。

新左翼運動の特徴は、次の3つにあり、第一に、世界的な民衆の解放闘争の一環に位置しているという自覚と実感が、活力の大きな源泉となっていた。ベトナム革命やフラ

ト・ラディカルズでした。政治党派は、いずれの闘争でも行動的突出力の役割を担いました。この2つのた

たかいは、街頭でのデモ隊や市民と権力との大がかりな衝突、大学でのバリケード封鎖・占拠という大衆的

「革命（世界的な革命）のリアリティ」を見いだしたのです。

第二に、反戦平和運動において「反帝国主義」の立場を明確にし、「加害者」（ベトナム戦争に加担する参戦国・帝国主義の側に立つ抑圧国の人間）としての反省

の自覚を押し出し、「被害者」意識に立つ従来の反戦平和意識の転換を鋭く迫った。それまで共産党は、日本が帝国主義であることを認めなかったわけですから、「日帝打倒」という抽象的な捉え方の限界はあったのですが。

第三に、ラディカルな「反権力」の思想と原理を主張した。全共闘運動の中から出てきたのは、国家権力のみならず社会生活のあらゆる場面に存在する権力（支配）と権威を否定しようとする思想です。この思想は、経済成長が作りだした管理社会やテクノクラート支配

の抑圧性を鋭く撃ち、リプ定、自主管理の実現に進もうという志向や願望があり、両者が混在していた。この2つの志向は次第に分離し、当初は支えあっ

いた反戦・反安保闘争と全共闘運動は引き裂かれていきます。大学が国家権力につきつぎと制圧される中で、反乱の全体は69年秋には安保粉砕・政府打倒をめざす街頭実力闘争に絞られて、国家権力の分厚い壁に封じこめられて敗北。政府打倒をめざす街頭実力闘争は、70年の日米安保自動延長反対のたたかい、71年の沖縄返還協定粉砕の闘争まで持続したが、そのエネルギーはゆるやかに下降線を辿りました。

68～69年反乱の歴史的な意味は、前衛党が指導して国家権力を獲得することをテコにして社会を変革する」という社会変革の古いパラダイム（フランス革命からロシア革命に至る）の終焉を告げたことにありま

した。しかし、新左翼運動は、このことを見抜き、「反権力」の思想を豊かに展開し、リブや住民運動をはじめとする多様な社会運動の意味を深くつかみ、そうした運

動の発展と連帯にもとづく新しい社会変革の構想を探る必要性を学ばなかった。

新左翼党派は、「日帝打倒・安保粉砕」の目標のあまりの狭さや貧弱さに気づかず、国家権力の奪取優先という古いパラダイムに長らく固執し続けた。

そのことと密接に関連するものが暴力の問題です。大衆の実力闘争は、座り込みやスクラム・デモ、投石や火炎瓶、バリケード封鎖や建物占拠など多様な形態で

2400円＋税  
四六判256頁／2014年10月30日刊  
社会評論社  
※研究所テオリアでも扱っています。

展開された。それは、物理的土を掘った穴に籠って抵抗した。自分の身体を使っ

た命がけの抵抗が大衆の実力闘争でした。

しかし、当時の私たち新左翼は、大衆の実力闘争を自己限定的で防衛的な「抵抗の暴力」として自覚的に殺す銃火器を用いる武装闘争とは明確に区別され

る。それは、「抵抗の暴力」という自己限定性や防衛性を特徴としていました。自分たちの側に多くの負傷者や逮捕者が出て、相手を殺さないという準則が働いて

いた。石や火炎瓶を投げているのになぜ非暴力かと思われるかもしれないが、大量の逮捕者を出しながら

も自分の身体を使って抵抗することが核心であった。竹竿で機動隊の盾を突いても音が出るだけだったが、私たちの抵抗の意思を表示するということとそれによ

みが始まった。私たちの党派の中にも、そうした気分



や主張が勢いを増した。最初に紹介した笠井潔君などは、そのお先棒を担いでいました。

日本では、武装闘争の試

みは、本格的に展開される前に連合赤軍事件（72年）で無残な失敗に終わった。それだけでなく、「先制的内戦」といった絵空事の下に对立党派間の内ゲバが正当化されていきました。内ゲバは、新左翼運動に対する社会的な共感を根こそぎ奪い去った。「革命的暴力」が独り歩きし、新左翼運動は暴力のコントロールに失敗していったと言わねばならない。

### 新しい「全体性」の形を求めて

68〜69年反乱は、反戦・反安保闘争と全共闘運動が一つになった直接行動。大衆的実力闘争によって「全体性」を表現しました。「全体性」とは、社会全体を変革したいという志向、違った多様な運動どうしのつながりという意味です。

れるとき、「全体性」の新しい形をどのようにして創り出すのかという困難な課題に、新左翼運動は直面してきます。

そこでは、オルタナティブな社会像を共有していくことと同時に、（1）国家や企業に対する抵抗を持続する、（2）自分たちの手で自立した自治的な対抗社会（オルタナティブな社会モデル）を草の根から創り出す、（3）国家・自治体の政策や制度を変更させ、運動の成果を制度として確保する制度的改革、という3つの契機を結びつけることが必要になります。



全共闘運動

しかし、多くの新左翼党派は、社会党・共産党に代わる「真の前衛党」の建設に「全体性」の形を求めるという古くさい神話に囚われたままでした。新左翼党派を強く呪縛した「真の前衛党」という神話は、国家権力奪取を優先する革命のパラダイムと不可分一体であった。また、（3）の契機、たとえば革新自治体の経験を通して自立した地方政府の形成の課題に取り組むといった問題意識は、まったく欠落していました。

日本の新左翼党派は、行

動におけるラディカルさと裏腹に、思想的には「マルクスに帰れ」「レーニンやトロツキーに帰れ」といった超保守性を特徴としていた。古典マルクス主義にしがみつくとはいえない思想的な保守性は、たとえばエコロジィやフェミニズム、市民運動に対する強い拒絶感を生み、新しい課題への挑戦を妨げた、と言わねばなりません。

## 経済大国化と新自由主義の政治の始まり

### 社会運動の転換

### 利益誘導政治の展開と新自由主義の政治

1973年、資本主義世界はオイルショックに直撃され、経済成長が大きくダウンする時代に入りまし

た。日本もオイルショックを被ったのですが、海外市場への輸出ラッシュによって不況脱出に成功し、安定成長（74〜90年に年平均4%のGDP成長率）を上げ、世界第2位の経済大国にのし上がっていきます。

日本の企業は、日本型雇

新左翼の多くの党派は、「反スターリン主義」を標榜する党派に典型的に見られるように、批判の相手である共産党の組織体質をそっくり受け継ぎ、再生産しました。多様な思想や意見の共存を認めない一枚岩の発想、上意下達の指示や大衆組織に対する引き回し、極端な秘密主義といった特徴は、人びとの支持を失わせていきました。

成功させる秘密となった。高度経済成長による大衆消費社会の開花は私生活主義と政治的無関心を生み出していましたが、現状の「豊かな」生活を守ろうとする生活保守主義がオイルショック後の不況下の労働者をとらえ、民間の労働組合は急速に労使協調路線にのめりこんでいきました。

自民党は、1970年代に支持率がじりじりと低下する中で、支持基盤の再強化に乗り出しました。田中角栄政権（1972年〜74年）は、さまざまな補助金支出によって業界団体や地域の後援会を掌握し、自民党の集票力を回復することに力を注ぎ、利益誘導政治を露骨に展開した。76年にはロッキード事件が発覚し田中が逮捕された。これは、政・官・財が癒着した自民党一党支配の長期化が必然

的に生み出す政治腐敗の象徴的な出来事でした。しかし、自民党内における田中の支配力はむしろ増大し、80年代末の竹下派支配の崩壊まで続いた。

80年代に入ると、中曽根政権の下で「戦後政治の総決算」を掲げた新しい保守政治が展開されました。

対ソ軍事対決に転じた米国のレーガン政権の強い要求によって、日本が軍事的な役割をより多く分担し、軍事費を膨張させながら（GDP1%枠の突破）、日米安保が強化された。そして、行財政改革が推進され（第2次臨時行政調査会、通称「土光臨調」）、財政支出の削減と福祉の切り捨て、国鉄や電電公社の民営化など、競争原理と民間活力を導入する新自由主義の政治が始まった。さらに、靖国神社への初めての公式参拝（1985年）など、ナショナリズムの復活が試みられ、昭和天皇の死（1989年）を利用した大がかりな国家意識の動員が行われた。

中曽根政権が開始した新自由主義の政治は、しかし、直線的には進行しませんでした。国鉄の分割・民営化の強行は、労働組合の抵抗を解体し、その後の規制緩和や民営化への社会的合意を作りだすことに成功した。同時に、膨大な許認可権や補助金をテコとする官僚の権力は無傷のまま維持され、利益誘導政治の仕組

みは温存されたのです。公共事業をテコにした利益誘導政治と行財政改革の新自由主義の政治とは、80年代から90年代末まで両端を振り子のように行き来しながら、自民党政治の両輪として同時進行した。竹下政権や小渕政権は前者に、橋本政権は後者に力点を置いたと言えます。また、中曽根の靖国参拝は、歴史教科書

の検定問題（侵略戦争の事実記載の削除）と相まって、中国などアジア諸国の強い反発と批判を招き、靖国参拝はいったん中止されました。

1980年代には、政党の支持基盤の構造的な変化がゆるやかに進行しました。自民党は、利益誘導政治が功を奏していったん支

持を回復しますが（80年）、86年のダブル選挙での大勝（衆院で300議席獲得）は、無党派層の支持が流れこんだことによって生じたものです。業界団体や地元後援会や労働組合に組織されない無党派市民層の「浮気っぽい」投票動向が、選挙の勝敗と政治の方向を左右する時代が始まりました。

た。その変化は、まず労働組合に依存した社会党を長期低落に追いこみましたが（100議席前後に低迷）、自民党の一党支配を崩壊させる要因としても作用します。自民党を大勝させた無党派層は、89年参院選では自民党から離反し、逆に土井社会党を躍進させた。

強い要請に応えるという形にするため、こうして利権集団に期待感をもたせて推進しようとしているのだ。

東峰・天神峰住民追い出しを許さず、三里塚農民と連帯し、7・19三里塚・東峰現地行動を闘おう。

成田空港「第3滑走路」計画粉碎！

国土交通省・空港会社は、成田空港の発着枠拡大に向けて検討を行い、2020年の東京オリンピックをめどに30年代をめどに第3滑走路を新設するという計画を立て、すでに関係自治体や空港会社と協議を進めている。

国と空港会社は、成田の第3滑走路について3つの案を提示し、検討している。成田では「成田第3滑走路実現する会」（会長・成田商工会議所会頭）が署名運動を展開し、芝山町を中心とする住民や経済団体も「成田第3滑走路を目指す有志の会」を7月に設立するとしている。国や空港会社が住民の意志に反して、一方的に滑走路を建設するとい

うイメージを避け、住民の

強い要請に

1時結集

場所：旧東峰共同出荷場跡（成田市東峰05-1）、開拓道路に向けてデモ

会場への行き方：東成田駅地上12時集合／迎車待機で会場へ

（10：34発京成上野（特急）↓11：42着成田11：52発↓11：57着 東成田）

主催：三里塚空港に反対する連絡会

連絡先：千葉県山武郡芝山町香山新田90-5/回&0479-78-8101



# 吉川勇一さんと共にたたかっていた日々

白川 真澄

吉川勇一さんが5月28日に亡くなりました。享年84歳でした。吉川さんといえば「ベ平連」と言われるように、吉川さん抜きにベ平連の運動はなかったでしょう。吉川さんがベ平連から「市民の意見」に至る市民運動に全情熱を注いでお

## 共産党からの除名と共労党の創立、69年秋の闘争へ

私が吉川さんと最初に会ったのは、1964年の「日本のこえ」の会議でした。これは、部分的核実験停止条約の批准に賛成して日本共産党を除名された志賀義雄さんが立ち上げた政治組織で、共産党から除名された全国各地の活動家が結集しました。当時、日本平和委員会でも活動していた吉川さんも、その1人でした。

当時の共産党は、宮本顕治書記長が独裁的な権力を



細胞のなかで行ったために、10数名の仲間とともに「分派活動」の罪状で除名されました。

いまでもさんや樋口篤三さんも参加していました。日本のこえは、61年に共産党から除名されていた人たちによる「社会主義革新運動」(内藤知周、松江澄さんたち、春日庄次郎さんのグループ、無党派の共産主義者(武藤一羊、栗原幸夫、大塚正立さんたち)と一緒に、1966年に「共産主義者の結集と統一」をめざす全国会議」を呼びかけます。これは、革共同系(中核派、革マル派、第四インター)やブンド系とは一線を画した新しい党(共産党に代わる前衛党)を創ろうという試みでした。この試みは、ソ連共産党の意向を体した志賀委員長が脱落するというハプニングもあったのですが、共産主義労働者党の結党(1967年)に辿りつきました。

吉川さんは共労党の中央委員に選出されましたが、「本職」はベ平連事務局長として大車輪の活動をしていました。ですから、中央委員会の会議にも遅刻してきて、必要な報告を終えるたびに退席することが多く、真面目に党活動をしているとは思えません。しかし、時代はベトナム反戦闘争の高揚へと

向かっていて、私たちの党もそこに全力投入する方針を決めましたから、大衆運動の現場に身を置くことが優先され当然のこととされました。大衆運動主義の吉川さんを誰も批判できませんでした。

共労党は新左翼の党派のなかでは後発組でしたが、学生部隊(プロ学同)を中心に行動を二挙に急進化させました。69年には秋の佐藤訪米阻止闘争を「政治決戦」と位置づけ、全力を挙げて大衆の実力闘争を組織することを決定しました。私たちは、労働者が職場で決起するたたかい(拠点政治スト)と街頭実力闘争を結びつけるという方針で臨みました。10・21の闘争では、都職労の反戦派が有給休暇をとって昼間に都庁(当時は有楽町)に集結し、ここに合流するためプロ学同の部隊は築地市場に登場したのですが、機動隊によって散々に打ち負かされました。私といいたもさんは某所の指令センターに控えていましたが、「学生

部隊は散り散りになったが、再集結して次にどこに向かえばよいか」という電話が入りました。ベ平連のデモが清水谷から飯田橋へ向かうというのを聞いていたので、いいださんはそのデモに合流するように指示しました。私も、それしかないと同意しました。1万5千人のベ平連のデモは、飯田橋で機動隊と衝突し、火炎瓶も投げられました。

この指示を後から知って烈火のごとく怒ったのが吉川さんでした。吉川さんはこの問題を著書「市民運動の宿題」のなかで指摘していますが、「ある新左翼党派」とは自身が属していた共労党だったので。10・21闘争の総括のための中央委員会の席上で、吉川さんは大衆運動に対する党派的利用と引き回しをすることは許せない、いいださんに激しく迫りました。大衆運動の自立性を何よりも大事にする吉川さんの気迫に押されて、返す言葉もありませんでした。

## 三里塚闘争の渦中で

1969年秋の対政府街頭実力闘争は、国家権力の厚い壁の前に一敗地にまみれました。私たちの党は、安保条約の延長や沖縄返還協定に反対する街頭闘争の継続的な発展をめざすと同時に、人びとの生活と労働の拠点に入り込んで抵抗闘争を組織することに力を注ぎました。セネラル石油精製労組の長期ストへの支援、日産車体京都工場での季節工の山猫ストの組織化、そして三里塚闘争でした。

この過程で、71年末に共労党は3つに分裂しました。その大きな原因の1つは、新左翼の全党派を侵食していた武装闘争への憧憬のムード(共労党内では「人民戦争」論や「建党建軍」路線の台頭)に対して政治的にも理論的にもきっぱりと対決できなかったことにある、と私は考えています(ほぞを噛む思いですが)。

吉川さんは3つの分派のいずれにも組しない中立の立場を宣言し、以降は党組織に属しませんでした。共労党への愛着や帰属意識を私は折にふれて感じていました(吉川さんは否定するかもしれませんが)。

1970年代、三里塚闘争が民衆運動の中心となりました。78年の3・26管制塔占拠に登りつめる開港阻止闘争の過程では、党派的には第四インターと私たちの党派(共労党全国協議会、プロ青同)が緊密に連携し、ブンド日向派や無党派の活動家と協力した「連帯する会(代表は上坂喜美さん)」が主導的な役割を果たしました。同時に、文化人・知識人を結集した「廃港要求宣言の会(代表は前田俊彦さん、事務局長は鎌田慧さん)」を立ち上げましたが、吉川さんはその中心的なスタッフを引き受けてくれました。宣言の会の会議は、いつも代々木にある吉川さんの事務所を使って行われました。また前田さんは魅力あふれる思想と人格の持ち主でしたが、なにせお金がまったくない人でしたから、前田さんを支える役回りにはもっぱら吉川さんでした。

## 横断的な政治議論の場をつくるために

この闘争の過程で重要な役割を演じたのが「加瀬委」です。この闘争の過程で重要な役割を演じたのが「加瀬委」です。

1980年代に入って、

最後に、どうしても言うておかねばならないことがあります。共労党の三分裂の後に私たちが立ち上げた共労党全国協議会は意気盛んではありましたが、とにかく貧しかったのです。資金集めにすいぶん苦労して、あちこちカンパをお願いして回るしかありませんでした。その相手の1人が吉川さんで、私は年2回、代々木ゼミナール校舎に赴いてカンパを頂きました。吉川さんは政治的な議論をする時にはよく嫌味や皮肉を言う人でしたから、私は面と向かって「吉川さんは、すいぶん意地悪ですね」と言ったことがあります。しかし、カンパを手渡すときだけは何も言わず当然の行為のように振る舞ってくれました。吉川さんの心づかいが伝わってきたことを、よく覚えています。

振り返れば、半世紀にわたって歴史的なたたかいの日々を吉川さんと共にできたことに感謝の気持ちがあります。本当にありがとうございました。